

沖縄県宮古島市久松方言

陶 天龍

項目		基本情報
話者 情報	生年	1949年
	生育地	宮古島市久松松原
	性別	男性
	補足情報	
解説	概要	<p>久松方言は、宮古本島の中西部に位置する久松地区で話されている宮古語の方言である。久松地区は行政的に沖縄県宮古島市平良地域に属し、久貝（figabara [fugabara]）と松原（macibara [matsibara]）の二つの集落からなる。現地の人々は「久松」のことを「野崎」（nuzakž [nudzaks]）と呼び、「久松方言」のことを「野崎口」（nuzakž fuci [nudzaks futsi]）と言う。現時点では、松原の方言と久貝の方言は、発音や語彙・文法において違いが見られていないが、数少ない語彙において僅かな差異が見られる。</p> <p>Anderson (2015: 487-489) は沖縄語の話者を、ほとんど話せない「非話者（non-speakers）」・あまり話せないが、聞き取れる「半話者（semi-speakers）」・非公式の会話で日本語と沖縄語を交互に使う「ぎこちない話者（rusty speakers）」・非公式の会話でもっぱら沖縄語を使う「完全話者（full speakers）」に分けている。当該話者はぎこちない話者に当たると考える。当該話者の方言訳においては、方言形が思い出されず共通語が使われることがある（1-4の「テガミ」（方言形は「ティガミ」）、16の「ネツ」（方言形は「ニツ」）、25の「モー」（方言形は「ンニャ」））。</p> <p>参考文献： Anderson, Mark (2015) Substrate-influenced Japanese and code-switching. In Patrick Heinrich, Shinsho Miyara, and Michinori Shimoji, eds. <i>Handbook of the Ryukyuan Languages: History, structure, and use</i>, 481-509. Berlin: Mouton de Gruyter.</p>
	表記	<p>・成節子音： ツ [z] ヴ [[v] Δ° [m] ン [ŋ~ŋ'ː]] ツー [zː] ヴー [[vː] Δ°ー [mː] ンー [ŋ~ŋ'ː]]</p> <p>・成節子音が含まれる音節： ピッ [ps] ピッー [psː] ピッツァ [pss̺a] ピッツィ [pɕɕi] ピッツウ [pss̺u] ピッツユ [pɕɕu] ビッ [bz] ビッー [bzː] ビッツァ [bz̺a] ビッツィ [bz̺i] ビッツウ [bz̺u] ビッツユ [bz̺u] キッ [ks] キッー [ksː] キッツァ [kss̺a] キッツィ [kɕɕi] キッツウ [kss̺u] キッツユ [kɕɕu] ギッ [gz] ギッー [gzː] ギッツァ [gz̺a] ギッツィ [gz̺i] ギッツウ [gz̺u] ギッツユ [gz̺u]</p> <p>ヴヴァ [vva] ヴヴィ [vvi] ヴヴウ [vvu]</p> <p>・その他： ス [si] スウ [su] ツ [tsi] ツウ [tsu] ズ [dzi] ズウ [dzu]</p>
文法概説	備考・コメント欄参照	

〔基本例文50〕 沖縄県宮古島市久松方言訳

方言訳1 (もっともよく使う表現)	備考・コメント
1 ンナマカラ アグンカイ テガミュ カキ ッ ガマタ。	<ul style="list-style-type: none"> ・「手紙」は方言で「ティガミ」というが、ここでは、共通語形の「テガミ」になっている。 ・形態音韻規則により、「手紙を」は「テガミュー」のように、対格助詞「ユ」は前の名詞の影響で、原則的に音の交替が起こるが、ここでは「テガミュ」という音交替がない形になっている。借用語の場合は、音交替が適用されないことが多い。 ・宮古語諸方言では、自分の意志や予定を表すとき、断定非過去（現在非過去）の「カキツ」があまり使用されず、意志を表す接辞「-ディ」や、形式名詞「ガマタ」を使って、「カカディ」や「カキ ッ ガマタ」などの形で使われることが多い。 ・起点 (カラ) : カラ ・相手 (二) : ンカイ ・対象 (ヲ) : ヌ
2 フデシ テガミュ カキ ッ ピ ッ トウマイ ドウ ウー。	<ul style="list-style-type: none"> ・1と同様に、「手紙を」は「テガミュ」という音交替のない形になっている。 ・連体非過去は断定非過去と同様に「カキ ッ」になる。 ・手段 (デ) : シ ・累加 (モ) : マイ
3 ヤーンカイ イキッティカラドウ, テガミ ヌ カキ ッ ター。	<ul style="list-style-type: none"> ・1と同様に、「手紙を」は「テガミュ」という音交替のない形になっている。 ・中止【継起】: -ッティ(カラ(ドウ)) ・「家に帰る」は「ヤーンカイ カイツ (直訳: 家に帰る)」より、「ヤーンカイ イキ ッ (直訳: 家に行く)」のほうがよく使われる。 ・着点: ンカイ ・「すぐに」は久松方言では「フタキナ」であるが、ここでは訳されていない。
4 カキ ッ ター テガミュドウ ナンカイマイ ヌミノース。	<ul style="list-style-type: none"> ・1と同様に、「手紙を」は「テガミュ」という音交替しない形になっている。 ・連体過去は断定過去と同様に「カキ ッ ター」になる。 ・何度も: ナンカイマイ ・読み返す: ヌミノース (直訳: 読み直す)
5 ユニヤーンナ ジュージンカイ ナヅチ カー, ペーパーチ ニヴヴィ。	<ul style="list-style-type: none"> ・「夜は」は「ユニヤ (夜) ン (に) ナ (は)」になっている。なお、主題 (ハ) は「ヤ」であるが、対格助詞と同じように、前の名詞の影響で、音交替することが一般的である。この場合、「ヤ」は前の助詞「ン」の影響で、「ナ」になっている。 ・着点 (二) : ンカイ ・条件節 (タラ) : -チカー ・寝る: ニヴヴィ (「ニヴ」の命令形) ・さっさと: ペーパーチ (直訳: 早々と)。
6 アヤスカーバ, クルマム ツーバ アスキ ヅナ。	<ul style="list-style-type: none"> ・経過域 (ヲ) : ヌ (「ハ」は対格助詞の主題標識)。「車道」は「クルマム ツ (直訳: くるまみち)」というが、ここでは、形態音韻規則により、「車道を」は「クルマム ツー」のようにになっている。また、「クルマム ツツウ」といういい方もある。 ・原因・理由節 (カラ) : -バ(ドウ) (ドウは焦点助詞) ・禁止: -ナ
7 クヌ ホンヌバ タローンカイ フィーツ ドー。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手 (二) : ンカイ ・この: クヌ (「ウヌ」とも) ・やる: フィーツ (=あげる, くれる), 意志形は「フィーディ」, 終助詞「ドー」が意志形に後続すると、「フィードー」になる。
8 ピ ッ マカラ アミヌドウ ヅフパズ。	<ul style="list-style-type: none"> ・「昼」: ピ ッ マ ・起点 (カラ) : カラ ・主体 (ガ) : ガ (代名詞, 年上の親族など), ヌ (年下の親族, 無生物など) ・ツフパズ: 「ツフ (降る)」+「パズ (終助詞, だろう)」
9 ハルンカイ ナヅチカー, パナマイドウ サキヅ。	<ul style="list-style-type: none"> ・なる: ナヅ ・仮定: -チカ(ラ)ー (「タラ」に相当) ・「パナマイドウ サキ ッ」を直訳すると、「花もぞ咲く」になる。

10	ハナコガ マドー アキチカラー, ムスヌドゥ ツツィ キッター。	<ul style="list-style-type: none"> ・9と同様に、「-チカ(ラ)ー」が使われる。 ・マドー：「マド(共通語, 窓)」+「ユ(を)」 ・ツツィ キッター：入ってきた。「ツ(入る)」の中止形「ツツィ」+「キッ(来る)」の過去形「キッター」
11	ストウムテー アンチーナー テレビユバミーン。	<ul style="list-style-type: none"> ・形態音韻規則により、「ストウムティ(朝)+ヤ(は)」は「ストウムテー」になる。 ・形態音韻規則より、「テレビユ」を「テレビュー」になるべきであるが、前の語が外来語の場合は、対格助詞「ユ」は音交替しないことが多い。 ・否定(断定非過去)：-ン ・朝：ストウムティ(<つとめて) ・あまり：アンチーナー
12	ハナコヤ アンチーナ バングミユバミーン。	<ul style="list-style-type: none"> ・ユバ：「ユ(を)」+「バ(対格専用主題)」 ・「見はしない」は「ミーン(見ない)」と訳されている。 ・そんな：アンチーナ
13	ハナコヤ キッノー テレビユバ ミーダム°。	<ul style="list-style-type: none"> ・否定(断定過去)：-ダム° ・昨日：キッヌ ・昨日は：キッノー
14	ハナコヤ テレビユバ ミーダナドゥ, ホンヌバーキ ユミュー。	<ul style="list-style-type: none"> ・否定(中止【付帯状況】)：-ダナ(ドゥ), -ダナシ(ドゥ) ・ホンヌ：「ホン(本)」+「ユ(を)」 ・継続：ウー(読んでいる：ユミュー<ユミ「読んで」+ウー「いる」) ・限定(バカリ)：バーキ
15	テレビユ ミーダカー, クヌ スグトウヤ キューンナ オワリドゥ ウキッヤー	<ul style="list-style-type: none"> ・否定(仮定【反事実的条件】)：-ダカー ・「今日中に」は「キューンナー(直訳：今日には)」と訳されている。(「キュー(今日)」+「ン(に)」+「ナ(は)」) ・オワリドゥ ウキッヤー：終わっているだろう。(直訳：終わりぞおくれ) ・「中止形+ウキッ」は直訳すると「~ておく」になるが、ここでは未来の残存結果の意味である。
16	ネツヌ イデュー ッファンカイドゥ フスウツツウ ヌマスター。	<ul style="list-style-type: none"> ・方言訳の直訳：熱が出ている子供に薬を飲ませた。 ・「熱」は方言で「ニツ」というが、ここでは、共通語形の「ネツ」になっている。 ・相手(被役者：二)：ン/ンカイ(ただし、「ンカイ」は話者によって許容度が異なる。) ・フスウツツウ：フスウツ「薬」+ユ「を」 ・ヌマスター：飲ませた
17	カーチャンガドゥ ウトウトウカイ マッチャンカイ イカスター。	<ul style="list-style-type: none"> ・方言訳の直訳：母ちゃんが妹に店に行かせた。 ・「お母さん」は「ア二」という言い方もあるが、ここでは「カーチャン」と訳されている。 ・妹：ウトウトウ ・店：マッチャ
18	ウトウトウトウ アイッティドゥ, ドウーガバーキドゥ オトーン ンダレーター。	<ul style="list-style-type: none"> ・原因は「-バ(ドゥ)」で表されることが多いが、ここでは継起を表す「~ッティ(ドゥ)」が使われている。 ・ンダレーター：叱られる ・相手(ト)：トゥ ・相手(受身の動作主：二)：ン/ンカイ(ただし、「ンカイ」は話者によって許容度が異なる。) ・限定(ダケ)：バーキ(「ドウーガバーキ」は直訳すると「自分がだけ」になる。この場合、「ドウーガ(属格)」のように主格の「ガ」がついているが、格がついていない「ドウー」も可能である) ・弟：妹と同じように「ウトウトウ」である。 ・「お父さん」は「アーザ」という言い方もあるが、ここでは「オトーン」と訳されている。
19	ヤーン ミーン パースドゥ ヤマグンツツァレーター。	<ul style="list-style-type: none"> ・方言訳の直訳：家にいないときに泥棒に入られた。 ・泥棒：ヤマグ ・時点(二)：ン ・相手(受身の動作主：二)：ン/ンカイ(ただし、「ンカイ」が不可という話者もいる。)

20	クヌ ッファー ンナダ イミツチャガマ スウガドウ, アンチーヌ ムズカス カンジマイ カカレールバー。	<ul style="list-style-type: none"> ・方言訳の直訳：この子はまだ小さいけれども、こんな難しい漢字も書かれるよ。 ・小さい：イミツチャガマ (イミ「小さい」+ツチャノツツア「形容詞指小辞」+ガマ「名詞指小辞」) ・アンチーヌ：このような/そのような/あのような(「アンシヌ」とも) ・カカレーツ：書ける(能力可能と状況可能の違いはない) ・-ルバー：第1類動詞(母音語幹動詞)は「-(ル)バ」が後続し、第2類動詞(子音語幹動詞、一部母音語幹動詞)は「-バー」が後続し、相手に何か新しい情報を提供するときに使われ、「～よ」と訳されることが多い。 ・能力の対象を表すには「ヌ」(が)も「ユ」(を)も使えるが、「ユ」を許容しない話者もいる。(ただし、ここでは、話者は「マイ」(も)で代用されている。)
21	キューヤ ジカンヌ ム°チューバ, ヌカーヌカシ テガミマイ カカレーツ。	<ul style="list-style-type: none"> ・方言訳の直訳：今日は時間が満ちているので、ゆっくり手紙も書かれる。 ・状態可能の場合でも20と同じように、「カカレーツ」が使われる。 ・ム°チューバ：満ちている、いっぱいある。(「ム°ツ」(満ちる)の中止形「ム°チ」+「ウー」(いる)+「バ」(原因,理由)) ・20と同じように、能力の対象を表すには「ヌ」(が)も「ユ」(を)も使えるが、「ユ」を許容しない話者もいる。(ただし、ここでは、話者は「マイ」(も)で代用されている。) ・理由節(ノデ)：-バ ・ヌカーヌカ(シ)：ゆっくり
22	クヌ ッファー イミカーバ, ヒラガナシカ カカレーン。	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいので：イミカーバ(「イミ」(小さい)+「カー」(動詞化接辞)+「バ」(原因,理由)) ・「シカ」はおそらく共通語からの借用だと思われる。 ・「まだ」は久松方言では「ンナダ」であるが、ここでは訳されていない。
23	ツクエヌ ニヤーンニャバドゥ, ズーマイカギツチャ カカレーン。	<ul style="list-style-type: none"> ・方言訳の直訳：机がないので、字もちゃんと書けない。 ・コピュラ「ヤ-」は「ン」で終わる語(ここでは、否定動詞「ニヤーン(ない)」)のあとに現れるときに、「ニャ-」になる。 ・カギツチャ/カギツツア：きれいに
24	タローヤ ンナマ トウナヅヌ ヘヤンドゥ ホンヌ ヌミュードー。	<ul style="list-style-type: none"> ・継続【進行】：ウー(読んでいる)：「ユミ(読んで)」+「ウー(進行)」→ユミュー) ・場所(デ)：ン(ドウ) ・本を：ホン「本」+ユ「対格」→ホンヌ ・連体(の)：ヌ ・ドー：終助詞「～よ」
25	タローヤ ハナコカラ カヅター ホンヌバ モー サイゴガミ ヌミドゥーキツ。	<ul style="list-style-type: none"> ・「もう」は久松方言では「ンニャ」であるが、ここでは共通語の「モー」になっている。 ・「カヅター」の「ヅ」は無声音の「ター」の前に現れる場合、無声化するため、実際の発音は「カスター」になる。 ・継続【結果】：ウキツ(本動詞は「置く」という意味である) ・ユミドゥーキツ：読んである。(「ユム」(読む)の中止形「ユミ」+「ドウ」(焦点助詞)+ウキツ(～ておく)) ・相手(ニ/カラ)：カラ ・終点(マデ)：ガミ
26	ンナピツチャ カギツチャヌ トウカナンニヴヴァー。	<ul style="list-style-type: none"> ・「静か」という単語は何とどういうかわからないと言われたため、ここでは、「カギツチャ(きれい)」という単語に置き換えられている。 ・場所(デ)：ン ・もっと：ンナビ/ンナビツチャ/ンナビツツア ・ニヴヴァー：寝る,寝よう(「ニヴ」の意志形)
27	ユサラビヤキバシドウ ティンヌ アカーアカ ウーヤー。	<ul style="list-style-type: none"> ・起因(デ)：バシ,または,シ(-) ・夕焼け：ユサラビヤキ(cf.朝焼け：ストウムティヤキ) ・アカーアカ ウーヤー：赤いね。(直訳：赤々いるね,また「アカーアカシウーヤー」でも可)

28 ヤラビヌ トウキヤー タフケーシ フツンカイ イキムヌマイ ウトゥルスムヌドウ アターヤー。	<ul style="list-style-type: none"> ・方言訳の直訳：子供の時は一人でトイレに行くのも怖かったね。 ・トウキヤー：時は（「トウキ（とき）」＋「ヤ（は）」） ・手段（デ）：シー（タフケーシ「一人で」） ・「イキムヌ（行くの）」は「イキム（行く）」＋「ムヌ（もの）」からなっている。 ・ウトゥルスムヌドウ アター：「ウトゥルス（怖い）」＋「ムヌ（叙述接辞）」＋「ドウ（焦点助詞）」＋「アター（だった）」（なお、「アター」は「ヤター」ともいうが、「ヤター」が焦点助詞「ドウ」のあとに現れる場合は、「アター」になることも可能である。 ・「とても」は久松方言では「ウカース」であるが、ここでは訳されていない。
29 ソウバトゥカ ウドン ヤチカー ヤスムヌバズヤー。	<ul style="list-style-type: none"> ・方言訳の直訳：そばとかうどんだったら安いだろうね。 ・並列（ヤ）：トゥカ ・主題（ナラ）：ヤチカー（直訳：だったら）
30 フルホンヤヌドウ ホンヌ タカータカシカイ フィーターバー。	<ul style="list-style-type: none"> ・方言訳の直訳：古本屋が本を高く買ってくれたよ。 ・ホンヌ：「本が」と「本を」の両方の意味があるが、ここでは「本を」の意味である。 ・「高く」という副詞用法は、重複形の「タカータカ(シ)」を使うことが多い。 ・「カイ フィーターバ」は直訳すると、「買ってくれたよ」になる。「バー」はここでは説明を表す接辞であり、「～よ」と訳されることが多い。
31 ワーツキツヌ バツカーバドウ、トーマイクーン	<ul style="list-style-type: none"> ・原因・理由を表す場合は、久松方言では、「テ形」相当の形式を使わず、原因・理由を表す「-バ(ドウ)」を使う。 ・天気：ワーツキツ ・来ない：クーン
32 インナピッチャ ヤスーヤス ウキツチカーカーレータムヌ。	<ul style="list-style-type: none"> ・単に「安かったら」という場合は、「ヤスカ(-)チカー」になることが多い。しかし、ここでは、「ヤスーヤス ウキツ」(直訳：安々おく)のあとに、条件を表す「-チカー」が後続している。「ウキツ」はここでは、補助動詞の用法であり、「すでにそうなっている」ことを表し、「～である」と訳されることが多い。 ・逆接(ノニ)：ムヌ
33 タフケーシ アスピツガ イカンマイ ウムツシツファ ニヤーン。	<ul style="list-style-type: none"> ・譲歩：-(バ)ンマイ ・形容詞のあとに「-ツファ ニヤーン」(「フ(く)」＋「ヤ(は)」＋「ニヤーン(ない)」)をつけると、否定となる。 ・手段(デ)：シ ・目的(ニ)：ガ
34 ワーツキツヌデーム° ノーツチカラー イディレードウツシャー。	<ul style="list-style-type: none"> ・「天気が良くなる」場合は、動詞「ノーツ」を使う。 ・さえ：デーム° ・出られる：イディレードゥス ・「ツシャー」は「イディレードゥス」の「ス」と終助詞「ヤー(ね)」が融合した発音である。
35 タローヤ ンナダ チューガクセー。	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ：ンナダ ・テンスが非過去の場合は、コピュラが現れない。
36 ヤラビヌ トウキヤー センエンマイ ウカース タイキンドウ アタードー。	<ul style="list-style-type: none"> ・名詞の断定過去は名詞のあとに、「(ドウ) ヤター/(ドウ) アター」がつく。また、28でも説明したように、「ヤター」が焦点助詞「ドウ」のあとに現れる場合は、「アター」になることが可能である。 ・千円でも：センエンマイ(直訳：千円も)
37 クヤ ヤマグヌ パギツアトウベヤー。	<ul style="list-style-type: none"> ・泥棒：ヤマグ ・足跡：パギツアトウ ・「ベヤー」または「ベヤー」は「だろう」「かね」などと訳されることが多い。
38 クヤ バガ サナ、カヤ シンシーガ サナ。	<ul style="list-style-type: none"> ・コピュラの中止形は存在しないため、この文は久松方言では中止節を使うことができない。 ・傘：サナ

<p>39 アツツァー ワーツキ_{yy}ヌ ノーツチカ ラー, ッファヌキョー マーツキ サー リー, イザガラーンカイ イカディ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アツツァー: 「アツツァ (明日) 」+ 「ヤ (は) 」 ・仮定【予測的条件】の「なら」は「ヤチカー」(直訳: だったら)であるが、ここでは「ワーツキ_{yy}ヌ ノーツチカー (直訳: 天気が直ったら)」が使われている。 ・ッファヌキョー: 「ッファ (子) 」+ 「ヌキヤ (複数) 」+ 「ユ (対格) 」 ・「サーリー」は「連れる」の中止形である。動詞の中止形は、最後の音が伸びないことが多いが (e.g. イキ_{yy} 「行く」, イキ 「行って」), 伸びることも可能である (e.g. イキー 「行って」)。一方, 「サーツ (連れる)」という動詞の場合は, 「サーリー」のように最後の音が伸びることが多いが, 伸びないことも可能である。これは, 音韻句の構成と関係があると考えられるが, その仕組みは現時点では不明である。 ・どこか: ンザガラー/イザガラー ・イカディ: 「イキ_{yy} (行く)」の意志形
<p>40 クヌ サナト クツツァ バガ ムヌ ア ランドー。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「の」という代用形式はなく, 代わりに「バガ ムヌ (私のもの)」としなければならぬ。 ・名詞の否定は「名詞 (+主題助詞) +コピュラの否定 (アラン)」になる。この文では, 「バガ ムヌ (私のもの)」のあとに, そのままコピュラの否定がつづく「バガ ムヌ アラン」の形式になっている。 ・並列 (ト) は久松方言では「トゥ」であるが, ここでは共通語の「ト」で訳されている。
<p>41 A: アツツァマイ ウマンカイ クーディ ナ? B: ム[°]ー, クーヅドゥ ウムーバ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Bの発言の「思っているよ」は「ウムイ ウーバ」になるが, ここでは「ウムーバ (思うよ)」になっている。 ・クーヅ: 「クーディ (来る.意志) 」+ 「チ (引用) 」 ・引用節: チ(ドゥ) ・明日: アツツァ ・ここ: ウマ
<p>42 A: ノーチガ クーンガ?クーディチドゥ ウターダラー? B: イピツチャ ドゥーヌドゥ バヅ カー。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ノーチガ クーンガ」の最初の「ガ」はWH疑問文専用の焦点助詞であり, 最後の「ガ」はWH疑問文で使われる疑問を表す終助詞である。そのため「どうして」はほぼ焦点助詞がついている「ノーチガ」と訳される。 ・「...チドゥ ウー/ウター」は直訳すると「とぞ いる/いた」になるが, 「と言っている/言っていた」の意味になる。 ・ダラー: 相手への確認の形で非難や不満などを表す終助詞で, 上昇調の「だろう?」に相当する表現である。 ・「ごめん」は普通「ゴメン」や「スマンドー」などを使うが, ここでは訳されていない。 ・イピツチャ: 少し, 「イピツツァ」とも。 ・ドゥーヌドゥ バヅカー: 体が悪い。 ・25と同様に, 「バヅカー」の「ヅ」は無声音の「カー」の前に現れる場合, 無声化するため, 実際の発音は「バスカー」になる。
<p>43 A: カマン ウーソー タローナ? B: アラン, カヤ タローヤ アラダナ, ジローバズドー?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人を表す形式名詞には「スウ」があり, 主題助詞がつく形は「ソー」である。 ・「-ダナ」は否定の中止形であり, 「アラダナ」は「ではなくて」という意味になる。 ・否定応答詞は「アラン」である。これはおそらくコピュラの否定「アラン」と同根の形式だと思われる。 ・カヤ: 彼は/あれは ・「バズ」は共通語の「はず」と同根の形式であるが, 久松方言の「バズ」は, 形式名詞ではなく, 終助詞であるため, 「ジロー」と「バズ」の間に属格が入らない。また, 久松方言の「バズ」は推量を表し, 意味的には共通語の「だろう」に近い。
<p>44 A: ノーヌガ ヴヴァガ サナ? B: ウイガドゥ バガ サナドー。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どれ/とちらは久松方言では「ンジュ/ンスウ」であるが, 「ノー (何)」を使うのがもっとも一般的である。 ・サナ: 傘 ・ウイ: これ ・バガ: 私の

<p>45 A: ウヌ ホンヌ ユマディ ヤチカー カラサッダー。 B: ウヌ ホン ヤチカー ユミオワツ ドゥスター。</p>	<p>方言訳の直訳: A: この本を読むなら貸すよ。 B: その本だったら読み終わるぞした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユマディ ヤチカー: 「ユマ- (読む, 「ユム°」の基幹3) 」+ 「-ディ (意志) 」+ 「ヤ (コピュラ) 」+ 「-チカー (条件) 」 ・「ユミオワツドゥスター」は直訳すると「読み終わるぞした」になる。 ・「もう」は久松方言では「ンニヤ」であるが、ここでは訳されていない。
<p>46 A: トウナヅヌ ヤーンカイドウ ヤマグ ヌ ツーターツツア。 B: ア, アンチーナー? トウナヅンカイ ドウ ツーター ヤーチカー, バンタマイ チューイ シーダカー ナランサイガ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ツツア」は伝聞を表すマーカである。 ・「アンシ ヤパン?」: 「アンシ (このように/そのように/あのように) 」+ 「ヤ- (コピュラ) 」+ 「-バ (説明を求める) 」+ 「ン (YN疑問文の疑問助詞「ナ」の縮約形) 」 ・認識的条件 (ナラ) : ヤ (-) チカー ・サイガ: 「～じゃない?, ～だろう?, ～だよ」という意味であり, 相手の発言を反論したり, 訂正したり, 自分の主張・意見・情報などを相手に提示・確認したりするときに使われる。
<p>47 A: アミヌ ッファッジ ウーバ, マ ドゥー シミ ウキ。 B: ンニヤ シミドウ ウキッダー。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アミヌ ッファッジ ウーバ: 「アミ (雨) 」+ 「ヌ (主格) 」+ 「ッファディ (降ろう) 」+ 「チ (引用, と) 」+ 「ウー (いる) 」+ 「-バ (理由) 」。 ・マドゥー シミ ウキ: 「マドウ (窓) 」+ 「ユ (対格) 」+ 「シミ (閉めて) 」+ 「ウキ (～ておけ) 」。 ・シミドウ ウキッ: 「シミ (閉めて) 」+ 「ドウ (焦点助詞) 」+ 「ウキッ (～ておく, ～てある) 」。
<p>48 A: スウバ フォーガ イカディ。 B: スウバユツツアカ ウドンヌドウ マ スヤー。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目的 (ニ) : ガ ・比較 (ヨリ) : ユツツア/ユツツアカ/ユツツアマイ ・～のほうがいい: ヌドウ {マス/ゾーカー} ・伝達 (ヨ) に当たる表現はここには現れていない。
<p>49 A: イロハチヌ ホンヤヤ イザンガ アーガーラ ッサン? B: ッシドゥードー, カマン カンバンヌ ミーレー ウーサイガ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Aチヌ B: AというB ・ホンヤヤ: ここでは, 「ホンヤ+ヤ(主題)」が「ホンヤー」にならないのは, 「ホンヤ」が借用語であるためである。借用語の場合は母音交替が起こらないことが多い。なお, この文においては, 「ホンヤヌ (本屋が) 」は使えない。 ・どこ: イザ/ンザ ・疑問節のマーカは「ガーラ」である。 ・見える: ミーレー ウー (直訳: 見られる) ・サイガ: 「～じゃない?, ～だろう?, ～だよ」という意味であり, 相手の発言を反論したり, 訂正したり, 自分の主張・意見・情報などを相手に提示・確認したりするときに使われる。
<p>50 A: アヴヴァム° スウチエー フォーター クトー アーユ ッス? B: ム°ー。カヤ マーンチ ンمامヌ ヤー。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アヴヴァム° スウ: 油味噌 ・チエー: 引用助詞「チ」+主題助詞「ヤ」 ・フォーター クトー アーユ ッス?: 直訳は「食べたことありぞする?」になる。なお, 「ユ」は可否疑問文専用の焦点助詞である。 ・カヤ: あれは ・ム°ー: うん